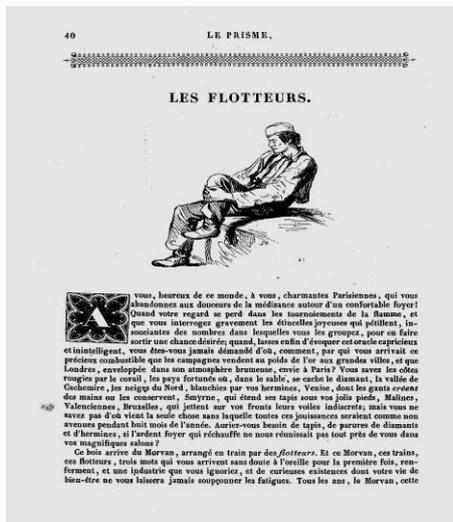


## セガン作「筏師たち」(川口幸宏訳)



あなた方、この世の幸せ者、すてきなパリっ子たちで、誰か、快適なペチカを進んで悪く言うような者がいるだろうか？ 渦巻く炎を見つめて過ごす時、パチパチ爆ぜる陽気な火花に見入り、やがて勢いが弱った炎をかき集め、とうとう最後の火が尽きようとしてしまう頃、(まだまだ？もう最後？と一引用者挿入) 炎に真顔でくり返して訊ねる。結局は残り火のふらふら、ゆるゆるとしたご託宣しか呼び起こすことができなくなる。田舎の人々が大都市に高く売りつけるこの貴重な燃料をあなた方のところに届ける人に、どうして(薪をもっと多く届けてくるように一引用者挿入) 言わなかったのだろうか？霧に包まれたロンドンがパリをうらやむように。あなた方は次のようなところ

ろや人を知っている。サンゴで赤くなった海岸、砂にダイヤモンドが埋まっている裕福な国、カシミアの谷間、あなた方の<sup>デン</sup>白貂で白くなった雪の北国、手袋が手にはめられあるいは使われずにしまわれているヴェニス、あなた方のすてきな足下のジュータンを拡げるシミルン人、あなた方の頭にヴェールを投げつけるようにして売るマリーン人、ヴァランシアン人、ブリュッセル。でもあなた方は、こうした楽しみがどれ一つとして1年の8か月の間は存在しなくなってしまうような、ただ一つの物を生みだしているところについて、知っていない。身体を温めてくれる燃えるペチカを囲んで、素晴らしい部屋で私たちが集うことがないとしても、あなた方はジュータン、ダイヤモンドや白貂の装身具が必要だというのだろうか？

この薪材は、トランに形が整えられ、筏師たちによって、モルヴァンの森から届く。このモルヴァン、このトラン、この筏師たち。疑いなく、最初はあなた方の耳に届くが、忘れられてしまう三つの言葉、あなた方が知らない産業、あなた方の幸せな生活にとって決して疲労を覚えさせない不思議な存在。1年中、いつも未開拓なようなこのモルヴァンの森は、それほど、豊かであり、気楽に、横柄に小川に垂らしているたくさんのコナラの小枝の冠を強調している。森が木々に言う——この冬パリは寒かろう。倦んでしまったこの都会をすこし暖めてやろう！ あらかじめ準備しておいた水門に伐採木を溜め込む。すべての伐採木がぎっしりと塊を作る。そう、ゆったりとした流れがその重い宝物を運ぶのだ。

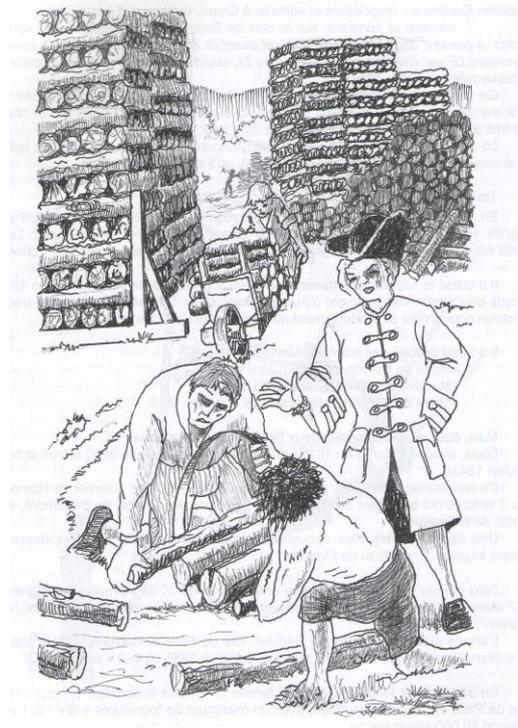


ヨヌヌ川の薪材を鉤で引き上げる 川辺にはぎっしり薪材の壁

どれだけ時間がかかろうとも、流れはクラムシーに届く。そこで、薪材は鉤で川から引き出され、ヨヌヌ川の兩岸に、人一人通り抜ける隙間なく長く高く積み揃えられる。こうして並べられた薪材は、たいてい、クラムシー近辺のアルム村からプッソー村に至る川沿いに拡がる地域を占拠する。そうなのだ、川に沿ってくねくねと曲がりくねったこの帯状の地帯

が好都合なのである。間違いなく、戦時の隊列は、この帯状が動き回るのも、とても面白い。しかしこの隊列は威厳があるのでもなく、大きくもなく、小さくもなく、計り知れないというほどのものでもない！ いずれにせよ、有用性は大きく、劇は満員である。隊列が一つ消えると、別の隊列がそれに続く。勇気はあらゆる世代のものだ。しかし、暖炉がこの二つの薪材の壁を焼き尽くし、名もない川が涸れ流れを止めると、パリ、パリの隅々までが、指に息を吹き付けねばならない寒気に対して、他に替わるものがないのだ。だが、そのようなことになるなんて、心配しなくてよい！ 筏師たち、かれら疲れを知らない水夫たち、建築家でもあり建造者でもありパイロットでもあるかれらが、私たちのために、骨の折れる職能を引き受け続けてくれる。

3月の雨の頃、川の水かさが増し始めると、周辺の地域から、多数の人々、その妻、その子どもたちが集まる。すべての人が入り交じる。力強い若者が積み重ねられた薪材を揺さぶる。薪材は崩れるが、ほとんど事故はない。それから娘たちが一輪車を近づけ、子どもたちがそれに薪を積み込む。年寄りはこの薪を集め 15 ピエ（引用者注：5メートル弱）の長い棒で支える。若者が <sup>カードル</sup> 枠の中に薪を入れる。力強くハンマーで打ち込む。このトランのうちの一つを **ブ** **ラ** **ン** **シ** **ュ** と呼ぶ。四つのブレーションシュが四角に結びあわせられ一つの **ク** **ー** **ポ** **ン** を形づくる。18のクーポンが一つのトランとなる。これらの労働のすべてが川岸で遂げられ、どの **ブ** **ラ** **ン** **シ** **ュ** も川に運び込まれた時、つまりすべてができあがって、ブレーションシュは、それぞれの間を **ル** **エ**（直径1プス（引用者注：3センチ弱）長さ15から20ピエの棒で、柳の枝のようにしなやかに曲がるように加工されている）で縛り付けられ、一番近くの運河水門が開けられた時にいつでも出発できるよう、**ト** **ラ** **ン** を作る。

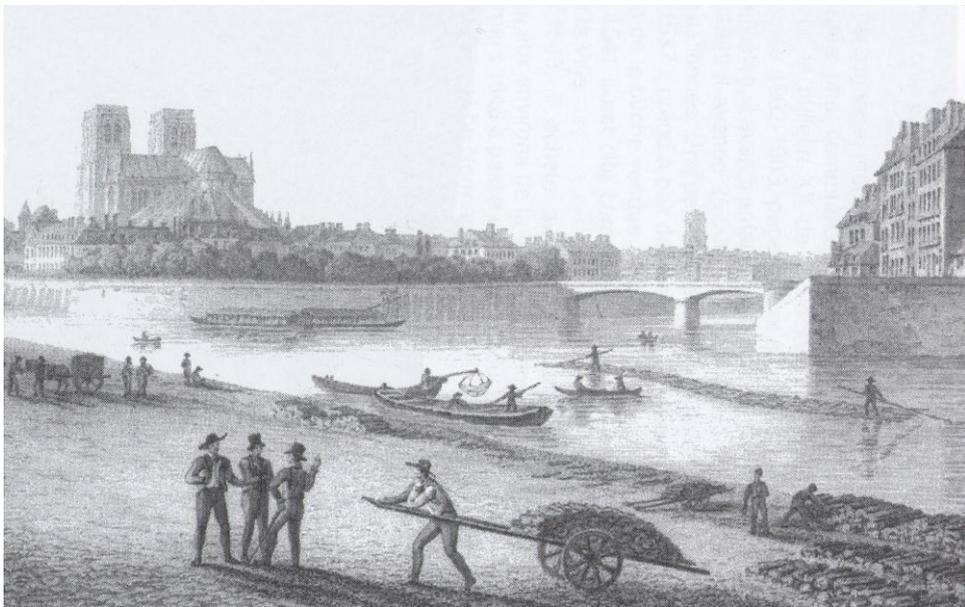


子どもと老人の労働光景

どのトランにも二人が乗りこむ。助手は子どもである。働きぶりから借りて、ブート・ダルジュの名がある。かれはトランの最後尾を操縦する。親方の筏師は先頭を務める。かれは突発的な出来事の場合にしかその場を離れない。奔放な腕前で、かれは、船首で、向かい風を受け、頭には何も被らず、髪を風にたなびかせ、腕を突き立てる。厚織りリンネルのズボン、青いサージのベルト、赤いシャツ、大きな短靴が筏師の風習となっている衣装である。それでこそ、腕を絶えず動かし、脚をしっかりと固定させて、必要に応じて右に左に突き進む準備ができていなのだ。かれは、祖先が用心深く慎重に川に架けた、ひっそりと佇む古い橋の、暗く、狭く、偏円のアーチをくぐり、堰を乗り越えなければならない。水流が運ぶトランは、深い堰の底に頭から突っ込んでしまい、壊れるかもしれないし横転するかもしれないのだ！ 安心せよ、筏師親方は両の手を頑丈な棒で操作し、棒を水底の砂に差し込み、流れを操る。それから棒の反対側の先端を、トランの先頭にしっかりと結びつけられた二つの **オ** **レ** **イ** **ユ**（耳）の一つに差し込む。流れは絶えず筏に襲いかかる。しかし、そのぞっとするような流れは続かず、薪材の長い蛇はその身体を持ち直し、大抵、その驚くほどの高さの姿を取り戻す。この操縦は大変な熟練を要する。人と筏の不安定な小舟（筏の上で休息を取るための小屋—引用者注）とは 30ピ

エ隔てられている。泡立つ水がとどろき、大きく拡がり、そして集まる。しかし必要な傾斜は十分にある。トランの先頭が狭い通路に入っていく。遙か後ろの、トランのしんがり<sup>見張</sup>が推進力を保っていないならば、アーチをくぐり抜けるとき、次のような簡単な命令が聞こえてくる——**ブート・ダルジュ**、**ムーン・オム**！——それで**ブート・ダルジュ**はかれの背丈と同じほどの長さの棒を握り、砂利に突き込む。子どものこうした努力によって大きな塊の泡立つ水の勢いが弱まる。これからは、かれらが危険を乗り越え、筏師とその**助手**が、狭く曲がりくねった、時には深く時には浅く、進むには十分な水量の水路に従って、棒を**あっちこちへと幾度も差し込みながら**、進んでいくのが見える。道のりは長い。しかもヨンヌ川は不規則な川である。筏師たちは、船乗りのように、障害物や暗礁を示す地図を持たない。にもかかわらず、長い経験のおかげで、かれらはどんな障害も知っているし、砂のどんな堆積にもかれらはなじんでいる。運航するために、そしてうまく操縦しなければならないために、8日から9日を要する100里の道のりには、逃げなければならないこと、あれこれ試さなければならないことのあることがかれらは分かっている。トランは、進み、浮かび、その船体を長く伸ばし、蛇行し、急ぐ。これらの動きはすべて筏師によって跡が残され、あるいは戦われる。今、その船首が水に突っ込む。するとベルトまで筏師は引きずり込まれる。それから船首が起きあがる。そして、息切れしたように、トランは止まるのを望んでいるかのようなのである。これは水の流れて推進されるこの長いマシンのあいだの果てしない戦いである。そして曲がったトランの機嫌をとる用心深い筏師は薪材のこの長いリボンの角を守る。それは川の厳しく狭く切り立った兩岸をうまくすり抜けるために他ならない。時には水は数プスの深さしかないところもある。すると、水がない我が親方は3、8あるいは9日間、砂で動けなくなる。つまり、**座州してしまう**のである<sup>1</sup>。

(ゴチック体表記は原文では斜体表記になっている)



薪材の筏は座州を乗り越えパリ・セーヌ川へ（運行途中と陸揚げ済みの絵）

図版使用資料：Hervé Chevrier, Histoire du flottage du bois sur la Cure, Société des sciences historiques et naturelles de l'Yonne, Editions Burgundia, 2007. etc.

<sup>1</sup> 座州したままの光景でエッセイは閉じられている。出典：E. SÉGUIN, *LES FLOTTEURS*, Le Prisme, Album des Français forme le tome IX des Français peints par eux-mêmes. Paris. 1841. pp.40-43.